

点数	評価	
3.5以上～4	よくあてはまる	◎
2.5以上～3.5未満	ある程度あてはまる	○
1.5以上～2.5未満	あまりあてはまらない	△
1.5未満	あてはまらない	×

カテゴリー	点数 ():前年度	評価	評価の概要と取り組み
I. 学校運営 学校組織 学校会議等 教員適正配置	3.9 (3.4)	◎	本校は、学校の目的・目標に基づき運営している。事業は、佐世保市が設置する学校として市の方針に基づいて計画し、自己点検および学校運営委員会での意見を反映し計画している。また、事業の進捗状況の確認や審議事案の検討は、教務会議や関連部署との会議および決裁を経ている。運営組織図があり、組織(チーム)の運営が各計画に沿って運営され、組織の構成員それぞれの職務分掌が明確になっている。
II. 教育活動 教育課程 実習・授業関係 教員の研究、成果の発表 学籍管理	3.2 (3.0)	○	〔教育課程〕教育理念、教育内容、単位修得内容については整理できている。卒業時および各学年での学生像を設定し段階的な教育に取り組んでいるが、現在の学生の特徴から、個別の学習支援も必要となっている。 〔実習〕教員と実習指導者との役割を明確化しているが、個々の施設の特徴により指導体制が異なっているため、教員が状況を把握しながら実習指導者と連携して調整を図っている。 〔授業関係〕授業計画を明示し、教員の教育体制、授業評価もほぼできている。 〔教員の研究〕教員の研究・研修費を確保し、自発的な研鑽が支持されている。また、教員同士が互いの授業に参加するなど、教育方法・内容の向上に努めている。 〔学籍管理〕新学籍管理システムへ移行して2年となり、スムーズな運用ができている。
III. 入学、養成所の情報提供 入学に関すること 本校の特徴や入学に関する情報	2.9 (3.0)	○	本校の入学者確保のために、小学生や中・高生を対象としたイベントの開催に取り組んでいる。また、高校を訪問し、進路指導の教諭へ看護や本校についての情報提供を行っている。 本校の特徴や入学情報についてわかりやすく発信するため、令和7年度から新たなホームページを開設するための準備を行った。 推薦入学試験における指定校の推薦枠(1校あたり5人)を撤廃し、志願者の門戸を拡大した。
IV. 学生支援 学修環境及び学習支援 生活支援 国家試験合格支援	3.2 (3.0)	○	学習に必要な文献や雑誌を揃えており、学生の希望に応じて、必要な部屋の提供を行い、学習環境をほぼ整えている。潜在化している学生(真面目に取り組んでいる学生、成績の良い学生)に対する支援も必要であるため、学生の気づきを教員間で情報共有しながら、個々の学生に対して、支援ができるようにしていく。また、国家試験受験対策は学年に応じたものを行っている。 学校カウンセラーおよび教員による精神的サポート体制をとっており、カウンセリングの機会を明示し、学生に活用されている。
V. 就職、進学、卒業 進路決定	3.2 (3.2)	○	令和6年度の卒業生は、全員が就職または進学し、本校の教育理念・教育目標と一貫している。 就職・進学支援として、学年でのキャリア形成支援講座や個別での相談、模擬面接など学生に対して関わることはほぼできている。
VI. 卒業生の把握 卒業生の把握	3.0 (2.9)	○	就職先での実習や会議等が卒業生の状況について情報を得る機会となっている。施設のみではなく、学校に来訪する卒業生から自身や他の卒業生の近況を聞くこともあり、離職のみではなく就業継続ができている理由など、在学生の支援に生かせる貴重な情報となっている。これらの情報交換は離職防止に資するものでもあるため、今後も就職先の施設や卒業生と連携を図っていききたい。
VII. 地域社会への貢献 地域との連携と社会への情報発信 実習施設との連携	3.1 (3.2)	○	学校のイベントやホームページ・SNSは、地域住民が看護士養成に関する情報を得るツールとなっている。また、本市の特徴や地域性を把握し、教育活動を取り入れたボランティア活動ができていることや、卒業生の8割弱が佐世保市内の病院に就職していることから、地域貢献すなわち社会貢献ができると考える。
VIII. ボランティア活動 ボランティア活動	3.3 (2.9)	○	地域・在宅看護論の講義や実習が契機となり、学生・職員共に、生活支援サポーターとしてのボランティア、地域支え合いフォーラム、地域の行事、災害訓練などに参加している。学生にとっては地域住民との交流の場であり、学習の場でもあるため、今後も積極的に取り組んでいく。また、このような活動は学校の魅力発信や学生の地元就職につながる機会ともなる。
IX. 学生満足度 講義 実習 設備 学校生活	3.5 (3.2)	◎	アンケートの回答では、「満足・ほぼ満足」の割合を令和5年度と令和6年度で比較すると、1年生はほとんど差はなかったが、2・3年生においては上昇している。特に2年生は10ポイント(87.1→98.1%)の上昇があり、中でも実習の満足度が高かった(91.3→99.6%)。 意見としては、「タブレット授業だと教科書忘れがないので取り入れてもらいたい」「ロッカーをもっと広くしてほしい」「交通費を出してほしい」「演習では先生方が複数人いるため、質問しやすく学びを深められた」などがあった。